

山と花のたより 110号

2010年1月10日 松尾

メールアドレス tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

明けましておめでとう御座います。

身の回りを眺めても、テレビを見ても、大変な時代になったとの感じを日々痛感しますが、そうした社会の動きにも目を向けつつ、山登りを楽しみ、自然・環境を守るとりくみも続けたいと考えています。

今年も「山と花のたより」へのお力添えをお願いいたします。

迎春

旧年中有難うございました。激動の時代
国民本位政治への前進と核廃絶の動きとを
加速させましょう。宜しくお願い致します。

2010年元旦

二上山だより

元旦の二上山に数百人の登山者

元日早朝から二上山雌岳に登った。當麻山口神社の石鳥居に5:30集合、キャップランプで登山道を照らしながら、休みなしで歩いて6時10分ごろに山頂着。

すでに多くの方が行列をつくっている。先着500名が虎のイラスト又は寅の字の焼印入りシャモジをもらえ、さらに抽選で金杯かキーホルダーを頂けるとのこと。大阪府太子町体育協会が行う恒例のイベントらしい。

奈良県在住者としては、少々後ろめたさを感じつつシャモジを受け取って馬の背に下りると、そこでは甘酒が配られていた。



ジョウビタキ雄

(友田健太郎氏写す)

寒さの中で立ち並んだ身に熱々の甘酒はありがたかった。

丁重に礼を述べて、元旦未明から登山者へのサービスに立ち働く人々の労をねぎらって山を下った。

下る途中の「展望岩」からは大和盆地の南部が一望された。大和三山が湖に浮かぶ島のように目立ち、その背後に盆地と宇陀郡とを分かつ音羽山～熊ヶ峰の山並みがそびえている。その北方に鳥見(とみ)山、貝ヶ平山など榛原の山々が見える。

麓に下りると民家の近くでジョウビタキが尾を振って愛嬌をふりまいていた。

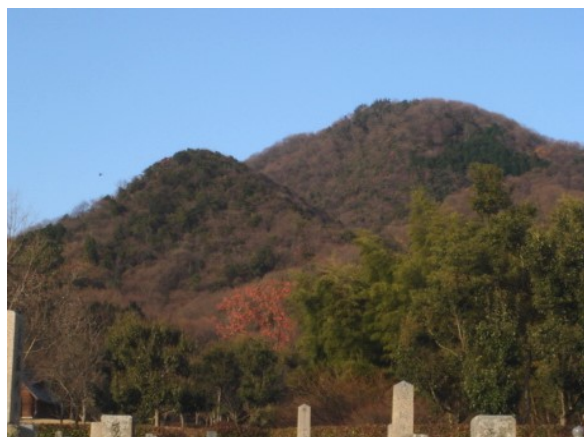
二上山群の山々② 鷹塚(とびづか)



當麻道の駅付近から二上山雄岳を見上げると、その手前にきれいな円錐形のピークが見える。これが鳶塚で、雄岳の大和側の守衛よろしくそびえている。

全山雑木林に被われ、標高268mの山頂も展望良好とは言いがたいが、葛城市全域が見渡せる。

この鳶塚の中腹で以前松茸を食べさせてくれた小屋があったと聞くと、たしかにそういう雰囲気のところであり、その施設らしき小屋が半壊状態で今でも残っている。小屋の中には幾つかの七輪や多数の食器・什器が見受けられて、かつての様子を偲ばせる。



左の低い山が鳶塚、右は雄岳（ふるさと公園から）



登山道は葛城市加守の補陀落池のほとりから小屋跡を経て、その先の分岐で直進し滑りやすいジグザグの急坂を登る。

頂上を踏んで反対側に下り、しばらく登ると、ふるさと公園展望台からの道に合流し、右（西）に行けば雄岳や雌岳に登ることが出来る。いずれも雑木林中の気持ちのいい散策路である。

←鳶塚山頂（山名板がかけられている）

サザンカ（冬の二上山の貴重な彩り）

やや盛りを過ぎたが、サザンカが頂上周辺の路傍に赤い花を見せている。椿とともに花の少ない真冬の二上山にわずかな彩りを添える貴重な植物だ。

ツバキ科ツバキ属で日本特産種とされているが古代は何と呼ばれていたのだろう。サザンカという名は「ツバキ」の中国名（漢名）「山茶」が誤ってあてられ、山茶花と書いて「サンザカ（クワ）」と読むようになり、江戸時代初期に「サザンカ（クワ）」と言うようになった（山口仲美著「生きていることば」）らしい。

一方ツバキには春に咲くので椿の字をあてている。

サザンカのように間違った漢名があてられた植物名は数百種に及び、それによる弊害もカタカナ表記がされるようになった理由の一つだそうだ。

